



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要			
建物名称	丸福製茶株式会社 新築工事	BEE	0.9
		BEEランク	B-
			★★

2. 重点項目への取組み度			
重点項目	得点*/満点	取組み度	評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.9 /5		ふつつ
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.6 /5		がんばろう
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.3 /5		ふつつ
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.5 /5		がんばろう
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	
		よい 4点以上	ふつつ 3点以上
			がんばろう 3点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。				
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)		得点	3.9	
<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) <ul style="list-style-type: none"> ④長寿命の内装仕上げ材の採用。 ④耐久性に優れた設備配管の採用。 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ⑤環境省が示す「生態系被害防止外来種リスト」に記載された定着予防外来種、総合対策外来種を導入しない。 ⑥空地率62.99%を確保した。 ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) <ul style="list-style-type: none"> ⑨LED照明の採用。 ⑨高効率空調機の導入。 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) <ul style="list-style-type: none"> ⑪節水機能に優れた節水型機器の採用。 ⑫グリーン購入法適合品を採用した。 ⑬躯体と仕上げ材が容易に分別可能。 ⑬ODP、GWPに優れた断熱材の採用。 ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) <ul style="list-style-type: none"> ⑭省エネルギー対策により、LCCO2排出率は参照値に対して81%。 ⑮主風向に対する見付面積比を40%未満とした。 	Q-1 2 2.1 2.1.2 ①	① 外皮性能		
	Q-1 3 3.1 3.1.3 ②	② 昼光利用設備		
	3.2 3.2.1 ③	③ 昼光制御		
	Q-2 2 2.2 2.2.1 ④	④ 躯体材料の耐用年数		
	2.2.2 ④	④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔		
	2.2.3 ④	④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		
	2.2.4 ④	④ 空調換気ダクトの更新必要間隔		
	2.2.5 ④	④ 空調・給排水配管の更新必要間隔		
	2.2.6 ④	④ 主要設備機器の更新必要間隔		
	Q-3 1 ⑤	⑤ 生物環境の保全と創出		
	3 3.2 ⑥	⑥ 敷地内温熱環境の向上		
	LR-1 1 ⑦	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制		
	2 ⑧	⑧ 自然エネルギー利用		
	3 ⑨	⑨ 設備システムの高効率化		
	4 4.1 ⑩	⑩ モニタリング		
4.2 ⑪	⑪ 運用管理体制			
LR-2 1 1.1 ⑪	⑪ 節水			
1.2 1.2.1 ⑪	⑪ 雨水利用システム導入の有無			
1.2.2 ⑪	⑪ 雑排水等利用システム導入の有無			
2 2.1 ⑫	⑫ 材料使用量の削減			
2.2 ⑫	⑫ 既存建築躯体等の継続使用			
2.3 ⑫	⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
2.4 ⑫	⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			
2.5 ⑫	⑫ 持続可能な森林から産出された木材			
2.6 ⑫	⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み			
3 3.1 ⑬	⑬ 有害物質を含まない材料の使用			
3.2 3.2.1 ⑬	⑬ 消火剤			
3.2.2 ⑬	⑬ 断熱材			
3.2.3 ⑬	⑬ 冷媒			
LR-3 1 ⑭	⑭ 地球温暖化への配慮			
2 2.2 ⑮	⑮ 温熱環境悪化の改善			
"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)		得点	2.6	
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) <ul style="list-style-type: none"> ⑰節水型器具(節水型便器)を採用。 ⑰地下空間無し。 	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯	⑯ 耐震性		
	2.1.2 ⑯	⑯ 免震・制振性能		
	2.4 2.4.1 ⑰	⑰ 空調・換気設備		
	2.4.2 ⑰	⑰ 給排水・衛生設備		
	2.4.3 ⑰	⑰ 電気設備		
	2.4.4 ⑰	⑰ 機械・配管支持方法		
	2.4.5 ⑰	⑰ 通信・情報設備		
	"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)		得点	3.3
	<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) <ul style="list-style-type: none"> ⑳余裕のある階高とした。 ⑳空間的自由度の向上。 ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) <ul style="list-style-type: none"> ㉑街並みに配慮し、敷地周囲に視線を遮るような連続した塀を作らない。 	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲	⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画	
		3 3.1 ⑳	⑳ 階高のゆとり	
3.1.2 ㉑		㉑ 空間の形状・自由さ		
Q-3 3 3.1 ㉑		㉑ 地域性への配慮、快適性の向上		
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)		得点	2.5	
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/㉓敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ㉓空地率62.99%とした。 ■敷地外環境対策 (⑳持続可能な森林から産出された木材/㉔温熱環境悪化の改善) <ul style="list-style-type: none"> ㉔主風向に対する見付面積比を40%未満とした。 	Q-3 1 ⑳	⑳ 生物環境の保全と創出		
	2 ㉒	㉒ まちなみ景観への配慮		
	3 3.2 ㉓	㉓ 敷地内温熱環境の向上		
	LR-2 2 2.5 ㉔	㉔ 持続可能な森林から産出された木材		
	LR-3 2 2.2 ㉔	㉔ 温熱環境悪化の改善		

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	丸堀製茶株式会社 新築工事	階数	地上2F
建設地	静岡県掛川市下垂木3061-1他11筆	構造	S造
用途地域	用途地域、防火地域指定なし	平均居住人員	27人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,968時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年6月 予定	評価の実施日	2021年10月30日
敷地面積	8,824㎡	作成者	大橋 隆夫
建築面積	2,525㎡	確認日	202●年●月●日
延床面積	2,984㎡	確認者	〇〇〇



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.9 ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法

46 (kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.2

Q1 室内環境

Q1のスコア= 0.0

N.A. N.A. N.A. N.A.

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.5

機能性: 1.5, 耐用性: 2.9, 対応性: 3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.1

生物環境: 1.0, まちなみ: 3.0, 地域性・: 2.0

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.1

N.A., 3.0, 4.9, 3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.2

3.4, 3.1, 3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

3.7, 3.0, 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合 これはCASBEE静岡2016年版による評価結果である。 建物の設計の段階から省エネルギーを含めた環境配慮の取組みを図り、HACCP(ハサップ)の考え方にに基づく衛生管理を意識した施設とした。 建築物の環境品質については、ゆとりが有り維持管理のしやすい空間とすることで環境品質が向上するよう努めた。		その他 特になし
Q1 室内環境 評価対象外。	Q2 サービス性能 空間にゆとりを持たせることによって、機能的で使いやすい空間とするとともに将来の変化にも対応できるよう配慮している。 また、仕上材に耐久性の高いものを採用し、更新必要間隔を長期化した。	Q3 室外環境(敷地内) 外部仕上等の色彩において、周辺の街並みや風景にバランスよく調和させている。
LR1 エネルギー LED照明など高効率な設備機器を採用してエネルギーの削減を図っている。	LR2 資源・マテリアル 外壁の仕上材にガルバリウム鋼板や窯業系サイディング等、躯体と容易に分別できる建材を採用した。	LR3 敷地外環境 地球温暖化対策や大気汚染防止に努めて、環境負荷の低減に取り組んでいる。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい